宍道みずうみ学園
宍道小学校　学校だより

宍道っ子

令和8年1月21日
文責　校長(石橋　裕子)

宍道小
ホームページにも
掲載しています。

まとめの3学期スタート

本校校務技師作成「門松」を昇降口に飾り、新年、子どもたちを迎えました。

いよいよ、令和7年度のまとめの学期がスタートしました。

50日間(6年生は47日間)の3学期ですが、この3か月は、子どもも大人も、あっという間に過ぎていくように感じる月日です。子どもたちが進級に向けての意欲をもつことができるように、学習も学級や学年の活動も、振り返りを大切にした学期にしたいと思います。

3学期の始業式では、校長の話の中で、

> 今年の干支『丙午』の言葉の意味から、今年は『エネルギッシュ』で、『パワフル』な一年になりそうです。このことからも、『何かを始める(挑戦する)チャンスの一年』にできるのではないでしょうか。
>
> ただ、せっかく新たに始めたり、挑戦したりすることが、周りの人に『流されたり』、自分の思いだけで『突き進むだけ』にならないように、馬のたずなのように、『自分でよく考えて』『心(気持ち)を自分でコントロール』することも意識してみましょう。

ということを子どもたちに伝えました。

令和7年度の1学期から、スローガン「笑顔かがやく宍道小」を達成するために、「自分で考えて行動しよう」、「自分にされていやなことは人にはしない」と、子どもたちに折々に伝えてきました。この意識が、一人一人の子どもたちの行動に活かされるよう、本年度の残りの期間も、教職員で支援・指導のあり方について見直し、工夫できるよう頑張っていきたいと思います。

本年も、ご家庭、そして地域の皆様、よろしくお願いいたします。

見守りの方々(地域の方々)にも感謝

1月6日(火)に発生した地震は、みなさん、大変驚かれたことでしょう。

特に、冬休み中の平日であったため、ご家庭では、子どもたちだけで過ごしている際の大きな地震で、子どもたちはもちろん、保護者の皆様も心配な思いをなさったことと思います。

また、8日(木)の登校時には、見守りの方々が多数出てくださり、心から感謝しております。おかげで、子どもたちの登校時の不安感が和らいだと思います。

始業式の前後、各学級で地震が発生した際の行動について確認をしております。ご家庭でも、お話いただくと、子どもたちは、より具体的に行動方法について考えることができると思います。ご家庭での話題にしていただくと喜びます。よろしくお願いいたします。

昨年度までのPTA活動(ベルマーク収集)のおかげ

昨年度まで、研修部で取り組んでいただいた「ベルマーク収集」で集まったベルマークの点数で、学校教材を購入させていただきました。

今まで、ベルマークの収集にご協力いただいたおかげです。

今回、竹馬6組と、フラフープ5色×3セットを購入いたしました。

実際に、始業式の後半で、本校教職員が実際に竹馬に乗って紹介しました。小学校時代にバランス感覚を養うことは大切です。

寒い時期ではありますが、子どもたちが竹馬に挑戦し、少しでもバランス感覚を養うこと、体幹を鍛えることにつながることを期待しています。

宍道小学校教育活動についてのアンケートのご協力ありがとうございました

2学期末には、宍道小学校の教育活動についてのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。学校教育目標達成のために、それぞれの項目に合わせ、保護者の皆様同様、子どもたち、そして教職員もアンケートを実施いたしました。

その結果について、教職員全体で共有したのち、各分掌において、教職員で分析、取組の見直しをしております。そのまとめについては、「宍道っ子だより2月号」でお知らせする予定です。

また、結果分析の内容については、2月下旬の学校評議員会でも協議いたします。

書初め会 ～地域講師の方々の支援のおかげ～

子どもたちは、2学期後半から、書写の時間に書初めの練習に取り組んできました。

日頃の毛筆の学習と異なり、大きな紙（3年生は条幅紙、4年生以上は画仙紙）に、書初め用の大筆で書くことに戸惑った子どもたちはたくさんいたようです。

冬休みの宿題としても取り組みましたが、ご家庭の様子はいかがだったでしょうか。

1月15日（木）は、改めて、体育館に集合し、3･4年生、5･6年生が合同で書初め会に参加しました。書初め会は、例年、宍道みずうみ書道会の方々を講師にお招きし、一斉に書くものです。

当日は、講師の方に実際に書いていただきながら、書初めのポイントを確認しました。

1枚書き上げる度に、「見てください！」と手を挙げて、講師の方々にアドバイスを受ける子どもたちの姿や、「この字がうまく書けないので、ポイントを教えてください」と、自分から教えをお願いする姿も見られました。日本の文化に触れるという機会だけでなく、地域の方々との交流を通して、主体的に学ぼうとする姿が見られる良い機会となりました。